斬り 裂く のは 運命と 識れ
＜完結編＞

著　　池田　怜恻
表紙　藤岡　ると

【設定】オメガバースとは

※作者自身で作ったこの世界観のみ通用する設定もあります。

■6種類の性別があります。
男女の性の他に3種類の性が第二の性として存在します。
※本作では女性が希少になり種の保存の法則でできた性別としてます。

α(アルファ)性:容姿・能力がβやΩより優れリーダーシップをとるタイプが多く、
社会的地位も高い人間が多い。

β(ベータ)性:いたって一般的な普通の人種。

Ω(オメガ)性:男女ともに相手がどの性別であっても妊娠ができる。
少子化のため、希少人種として女性とともに大切にされているが、
性欲のみになる発情期の状態からの差別もひどい。
約三ヶ月に一度発情期(ヒート)が10日～二週間ほど訪れる。
発情期は抑制剤を飲むか、番と性交渉するかしなくてはおさまらない。
抑制剤は高額なため裕福でなければ使用できない、
番がない者で働く人間は少ない。

■妊娠について
女性とΩ性が妊娠できます。
Ω性はα・β男女問わず妊娠可能です。
女性とΩ性、Ω性とΩ性(※生殖能力者同士)が結ばれることは禁忌とされます。
女性αと女性Ωは認められてはいますが、希少同士のためほぼありません。
三親等内での番も血が濃く、子供が生まれにくいことから禁忌となります。
α×βの場合、αの産まれる確立は20%、α×Ωの場合はαが産まれる確立は80%
α×αの場合、50%となります。

■番について
α性が番のいないΩ性の首筋を噛むことで、番が成立します。
一度番になると、Ω性は発情期を番と性交渉することで収めることができるようになる。
番以外の男と性交渉すると体が拒絶し吐き気等がおさまらず体調を崩す。
体液で粘膜が爛れたりアレルギー反応をおこしやすい。
αからの番の解消は可能だが、解消してもΩが新たな番を作ることができない。
事故で番になったりしないようにΩ性は首筋にコルセットを巻いているのが普通である。
運命の番は中でも相性がいいΩとα同士のこと。
平常状態でも近くに寄れば発情状態を引き起こす相手である。

登場人物紹介

鹿狩　統久
（かがり　すべく）

☆年齢　27歳／属性　Ω／身長185cm／体重72kg
海運調査局の副局長。
父親は警察局総監。
長男であり、性判定前は跡継ぎとして育てられていた。
ざっくばらんの後ろ髪が少し長めの黒髪、黒目
鍛え抜かれた身体。浅黒い肌。
愛嬌のあるイケメン。見た目通り、豪快、剛勇の性格。

セルジューク・桑嶋
（くわしま）

☆年齢　24歳／属性　α／身長180cm／体重68kg
赤みがかったツーブロックの髪、黄土色の三白眼。
海運調査局のエリート。統久の番。
優秀だが、母がαに捨てられてβの家庭で養子として育つ。
家柄がよくなかったため苦労してきた。

鹿狩　歩弓
（かがり　あゆみ）

☆年齢　25歳／属性　α／身長180ｃｍ／体重65ｋｇ
海運調査局の局長。
統久の弟。オールバックの黒髪、メガネ。
運命の番である兄を一途に想っている。
実力、才能ともに次期総監と目されているが、長年
培った兄の統久に対する劣等感が強い。

シェン・リァウォーカー

☆年齢　26歳／属性　β／身長180cm／体重72kg
金髪。碧眼　リーゼント。統久の辺境時代のバディ

◇

覚醒して意識は浮上しているはずなのに、頭の中はぼんやりとしたままだ。

呼吸の間隔が狭まり、暫く遠ざかっていた良く知っている発情期特有の感覚に、彼は身を震わせていた。

彼に番ができて約半年、飢餓状態に陥ることもなくこんな切羽詰まった状況は久々だった。

久しぶり過ぎて、抑えがきかない。

こんな風になることを予測していなかったのと、発情期までは二週間はあり身体の準備もできていない。

促進剤を打たれたのか……。

ここは、どこなんだ。

まだ思考がまともなうちに手を打たなければ、まずいことになる。

焦るが視界も奪われているのか、通常の拘束とはわけが違うことだけが分かる。

彼の体は拘束されているようで、意識を集中しても指先ひとつ動かすこともできずに、視界も真っ暗なまま奪われていて焦りだけが募る。

どうやら筋肉を圧縮するラバースーツで、しっかりと身体が包まれているようだった。特に腕と脚の圧縮は強く筋肉のひとつも動かすことができない。

鼻と口は呼吸のために外に出ているようだが、舌には自殺防止のためかシリコンのカバーが嵌められている。

結婚式を挙げた後の記憶が曖昧だ。

披露宴が終わった後、発情期に合わせたハネムーンまで二週間あったので、出勤して遣り残しの仕事がないか確認をしていた。

違法麻薬の取引が行われていると、匿名の情報が入っていたのでセルジュを連れて出ようと思ったのだが、丁度彼は報告書をあげると上に呼ばれていると歩弓に聞いた。

だから、俺は後にしようと思ったんだが……そうだ、歩弓が代わりに車を出してくれるって言って……。

そうだ、向かった先で情報どおり違法麻薬の取引きをしている現場を見つけて……検挙しようと……。

……そこから、どうした。

頭の中が、ぐつぐつと湧き上がる熱で混濁してくるのがわかる。

……く、そ……ッ。

身体の内部から侵食してくる衝動と淫らな欲望には、勝てないことは彼は身をもって知っている。

スーツの中でビキビキと堅くなる下肢が痛くて悲鳴が出そうだ。

せめて、何かこの状況の手がかりがあればいいのに。

「結構な値段……ですね」

「疵物とはいえ、これは血統は良いオメガなのでね。欲しがる人は他にもいますよ。狂ってしまえば、自分が何者かすら覚えてはいられないはずですからね」

次第に虚ろになっていく頭には内容もあまり入ってこないが、微かな声が聞こえる。

手がかりになるようなものではないが、値段とかオメガなど単語は

聞こえる。
人身売買か……。
人身売買のシンジケートは潰した筈だ。
しかし次々と新しい犯罪組織が生まれてくる。イタチごっこでしかない状況だが、対策しないわけにもいかない。
身体を動かせないが、腕に埋め込んでいるナノマシンへ接続はできるだろうと、必死に脳波を送るが、全く応答がない。
検査すればナノマシンの存在くらい突き止められるので、身体から排出された可能性もある。
しかししっかり血管と神経に埋めこんでいるので、相当な技術者でなくては外せないしろものだ。
脳波が薬で乱れすぎていて繋げない可能性の方が高いが、薬が切れるタイミングがあるのか分からず、その前に精神が壊れてしまう可能性もあり、絶望的な事態に彼は奥歯を噛み締めた。
身体を拘束するスーツは窮屈で、身体の熱も逃がす事ができない。
まるで自分のことを知り抜いたともいえる拘束方法に、罠にかかったのだと思う。
最初の情報から、全部仕組まれてた。匿名の情報など、何故信じて動いたんだ……。
確か、セルジュの代わりに一緒にいたはずの歩弓は無事なのか……。
いつも慎重にやっていたのに、今回だけは、いろいろと抜けだらけだ。
歩弓がついてくれるということで油断した、のか。
……らしくない……こと、しちまった……。
どろどろに溶けそうになるヒートの感覚と、沸騰していく血流に次第に意識が奪われていった。

「彼のスーツを脱がせたいのだが」
「暴れたりしたら、母胎に傷がつく可能性がありますからね。受精させて着床して、安定期に入るまではスーツでの拘束を外さないように。下腹部だけは柔らかい素材で出来てますから」
「どれくらいの期間なのだ。一週間、二週間か……」
早く中を確認したいという男の言葉に、白衣の男性は首を振った。
「半年は必要です。大丈夫、部屋もスーツも滅菌されてますから、汚れませんよ」
鼻と口元以外を真っ黒なラバースーツで覆われた彼を、あの人だと判断するものは何もなかった。
意識のないかさついた唇を吸いあげると、微かに甘く太陽のような香りがほんのりとする。
自分だけが感じることができる特別な彼の香りである。
青年はその香りを確かめると、バイヤーに指定された金額の入ったトランクを手渡す。
「子供が産まれるまでの分娩までの管理はいたします。それにしても、全買上げとは、珍しいですね」
大抵は子供だけを買い取るのが多いのだとバイヤーは不思議がるように彼を見た。
たまたま調査していた新組織が、オメガを売るのではなく足がつかないように、オメガを苗床にして買い手との子供を産ませる事業をしていることを突き止めた。
アルファ同士の子供はアルファとベータが半々の確率で産まれる。アルファとオメガの場合は、5分の4の高い確率でアルファが産まれる。